

我が心の 「ガンザク 28号」

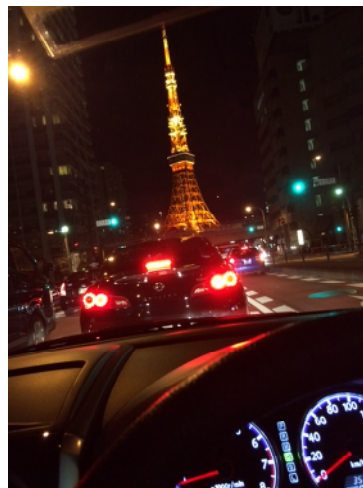
SCE・Net 横山哲夫

E-82

発効日
2015/8/25

昭和28年、1953年、私は東京で生まれた。戦後の復興が終わり、日本が元気になり始めた年である。この年にテレビ放送が開始され、5年後の昭和33年には東京タワーが開業される。トラス構造の赤いタワー。夜の三田通りをくるまで走ると、夜空に輝く東京タワーが正面に見える。心が癒される、美しい。高さではスカイツリーにかなわないが、今でも東京のランドマークである。

もうだいぶ前であるが、「三丁目の夕日」と言う題名の映画が上映された。三田通り付近で、自動車修理工場を営む家族の物語である。やんちゃな長男が飛ばしたゴム動力の模型飛行機が、東京タワーに向かって飛んで行く。そんな場面から映画は始まるのだが、何故かすでに目が潤んでいた。懐かしい。私の父親は伯父が営む町工場で働いていて、私にとって工場は幼稚園の帰宅途中による遊び場だった。今でも機械油の匂いをかぐと、懐かしさがこみ上げてくる。



カーバイドを水に浸すと泡が出てくる。アセチレンガスである。工場ではそのアセチレンガスをタンクにためて、金属の溶断に使っていた。そうかと思えば、モータ直結ではなくベルトがけの旋盤があって、布製のベルトがカタカタ回っていた。通り過ぎた懐かしい過去の思い出である。私が物作りを好きになったのも、そんな工場で働いていた職人さん達の姿を見ていたからかも知れない。

「花のニッパチ」、北の湖、若乃花、麒麟児、昭和28年生まれで活躍した力士達である。ニッパチ組は、その他のスポーツ界でも話題になった。彼らと一緒に私も昭和を生きて来た。時代を作った団塊の世代の背中をみながら、フォークソングにビートルズ、メンズクラブを買ってアイビールックにこったこともある。レモンスカッシュをレスカと言ったり、大学時代には味も分からないのにパイプを燻らしたり、結構楽しかった。しかし、社会人になるとそうは行かない。仕事に追われ、子育てにおわれ、大病を患い、やれやれと思っていたら60歳を過ぎていた。

話は変わるのだが、昭和にはヒーローがいっぱいいた。憎き悪役レスラーを次々にリングに沈める空手チョップの力道山、巨人大鵬卵焼き、ファイティング原田に大場政夫、そして最近アメリカでいい奴になったゴジラ。その他にも、アトムにウルトラマン、物心がついた頃のヒーローはハリマオに月光仮面、まだまだいます。ナショナルキッドに海底人間8823、スーパージェッターにサイボーグ009。

しかし、昭和28年生まれの私にとっての一番のヒーローは、正太郎少年が操る鉄人28号である。心からあんなロボットが欲しいと思った。4年前ごろか、家内と観光で神戸

に行った。旅行の目的の一つが鉄人28号に会いに行くことだった。気が乗らない家内を引っ張って、町のアーケードをくぐり、ビルの後ろの公園に鉄人は立っていた。良くできた実物大の鉄人28号である。写真を撮りまくり、そこからまた家内を残し、アーケードの端まで行って、鉄人のTシャツを買ってきた。



その時、ふとおもった。そうだ60歳の還暦に何か自分にプレゼントをしよう。鉄人のフィギヤを作ろう。それが、写真の「ガンザク28号」である。なぜ、ガンザクなのか。どうせ作るなら、俺の28号を作ろうと思い、私なりなりに考えて「ガンダム」と「鉄人28号」を合体させた造語である。それから苦節6ヶ月、アルミ板と銅板との戦い、ジャンク品を集め、LEDランプからは七色のビーム照射が出来るようにした。そして熱く楽しい6ヶ月は過ぎ、今、ガンザク28号は、透明アクリルケースのなかに立っている。